

「うれしい言葉」で伝えましょう

言葉は人と人をつなぐ大切なツールです。お子さんは今、言葉の意味や使い方、人に伝わる話し方などを体験していく大切な時期です。親子でうれしい言葉を見つけて、積極的に使っていきましょう。

いわれて「うれしい言葉」は？



人にいわれると「うれしい言葉」と「悲しい言葉」があります。「悲しい言葉」によって、人を傷つけてしまうこともあるので、「うれしい言葉」を使うようにしましょう。

「うれしいことば」をさがしてみよう

けんこうくまちゃん



- ☆ありがとう
- ☆やさしいね
- ☆たのしい
- ☆だいすき!
- ☆すごいな
- ☆よかったね
- ☆がんばったね
- ☆だいじょうぶ?
- ☆いっしょに あそぼう!

ほかに どんな ことばが あるのかな?

「悲しい言葉」をいわれた時は……



「ばか」「あっちいけ」「むかつく」などの悲しい言葉をお子さんにいわれた時は、「その言葉をいわれて悲しくなっちゃったな」と率直に伝えます。

乳幼児期は、感情のコントロールを学んでいるところです。発言を禁止するのではなく、いわれた相手が悲しくなることを知らせます。悲しそうな保護者を子どもが見ることで、「この言葉を使うのはよくないのかな」と感じて、覚えていきます。

まずは子どもの気持ちを聞いてみましょう

お子さんに、何がイヤだったのかなど、気持ちを聞いてみてください。そして、「悲しくなっちゃったんだね」「もっとOOがしたかったんだね」と、お子さんの言葉をくり返したり、代弁したりします。そのうえで、「OOするといいよ」「こういうふうにしたらすごいね」などと伝えるようにします。

何がイヤだったの? 教えてくれる?



乱暴な言葉は子どもを傷つけます

大きな声で怒鳴ることや、「ばか」「だめな子」などの人格を否定する言葉は、子どもの心や脳を傷つけます。また、周りのおとなの言動をまねてしまい、ほかの子どもを傷つけてしまっていることもあります。

「だめ」「やめて」「OOしないで」などの禁止ばかりでは、子どもには、どうすればよいのかがわからないことがあります。否定的な言葉のかわりに、何をすればよいのかを具体的に伝えるように心がけてください。

